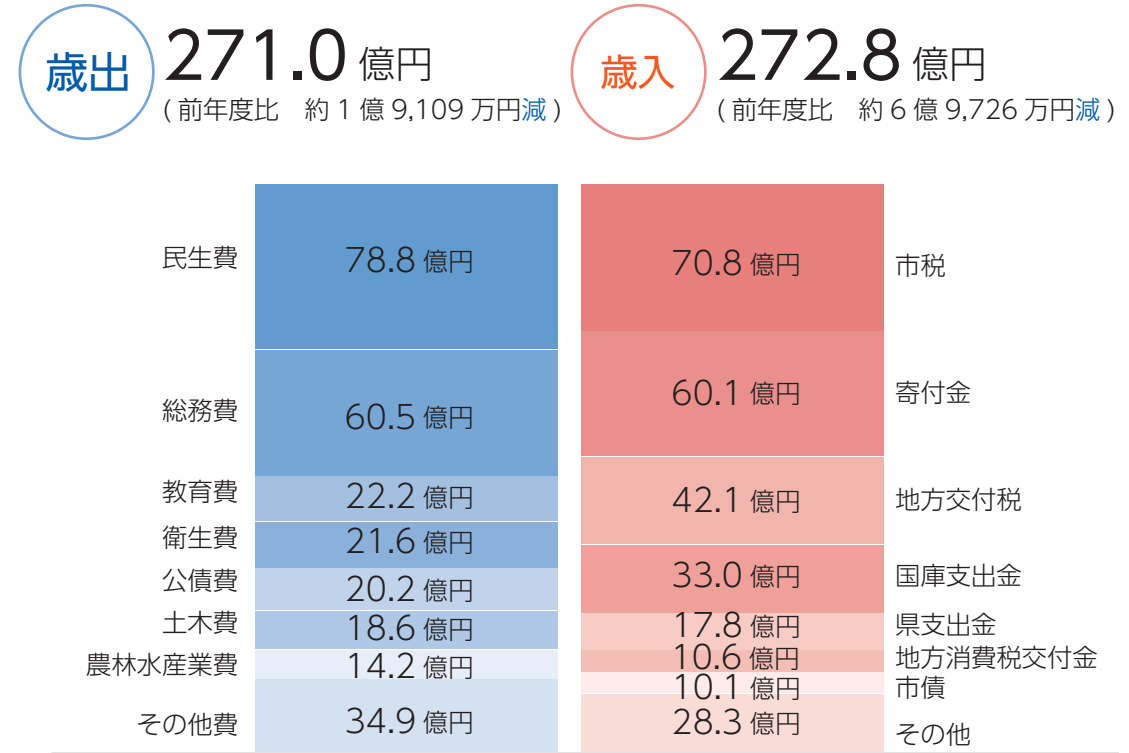


令和5年度決算

決算とは、1年間の収入と支出の総実績を明らかにすることをいいます。令和5年度に、いくら収入があり、どのように使われたのか、一般会計を中心に解説します。問合先…財政課 ☎ 8710

一般会計の内訳



解説

道路修繕事業費や電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金給付事業費の増加などがありましたが、新型コロナウイルスワクチン接種事業、建設事業費などにかかる費用が減少したため、全体では前年度より少なくなりました。

歳入歳出の決算

会計種別		歳入	歳出	収支
一般会計		272 億 8,080 万円	270 億 9,991 万円	1 億 8,089 万円
特別会計	国民健康保険	48 億 7,719 万円	48 億 7,624 万円	95 万円
	介護保険	52 億 2,350 万円	51 億 4,485 万円	7,865 万円
	後期高齢者医療	7 億 5,756 万円	7 億 3,605 万円	2,151 万円
	公園墓地整備事業	762 万円	311 万円	451 万円
	産業団地整備事業	3 億 7,851 万円	6,268 万円	3 億 1,583 万円
企業会計	水道事業	10 億 2,605 万円	11 億 8,167 万円	△ 1 億 5,562 万円
	下水道事業	18 億 5,250 万円	19 億 7,415 万円	△ 1 億 2,165 万円
	病院事業	44 億 8,100 万円	47 億 4,166 万円	△ 2 億 6,066 万円

解説

一般会計 さまざまな行政サービスを行うための会計
歳入 272 億 8,080 万円、歳出 270 億 9,991 万円で差し引き 1 億 8,089 万円の黒字となりました。この額から翌年度へ繰り越すべき財源 8,162 万円を差し引いた、9,927 万円が実質的な黒字です。

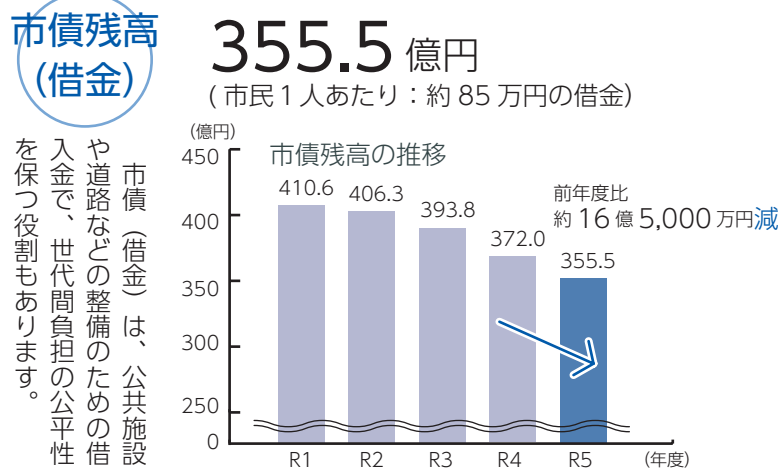
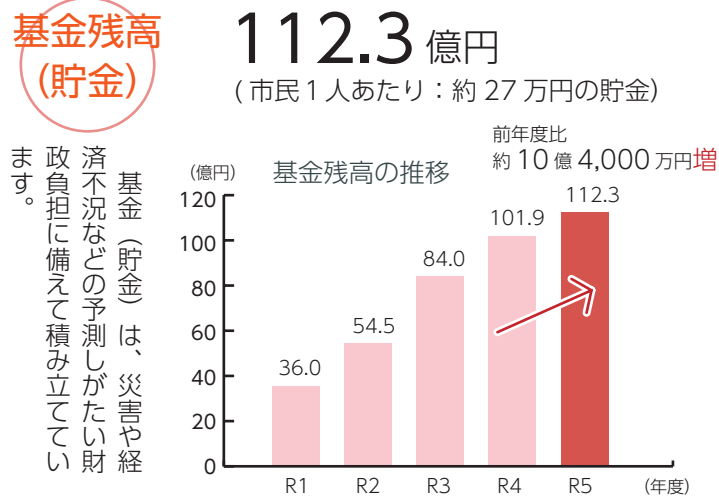
特別会計 介護保険など特定の事業に使うため、一般会計とは別に設置した会計
全て黒字です。

企業会計 民間企業と同じように事業収益によって運営している会計
水道事業と下水道事業、病院事業の全てが赤字となりました。



より詳細な
決算内容は
こちらから

貯金と借金



財政の健全性

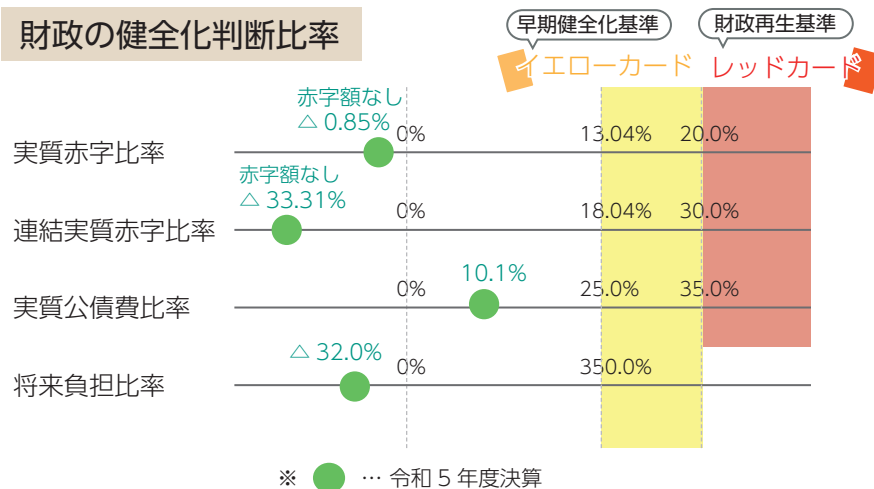
解説

平成 18 年度から計画的に公債費負担の軽減を図ってきたため、財政の健全化を判断する 4 つの比率はすべて健全です。

用語解説

実質赤字比率 普通会計の赤字額からみる財政運営の深刻度
連結実質赤字比率 全会計の赤字額からみる財政運営の深刻度
実質公債費比率 借金の返済額等の大きさからみる資金繰りの危険度
将来負担比率 市が抱える負債の残高からみる将来財政への圧迫度

財政の健全化判断比率



令和5年度に実施した 主な事業



情報伝達システム整備事業

1 億 3,090 万円 (総務費)
防災情報などをアプリで伝えるしくみを整備、対象世帯へタブレットを配布



データ連携基盤の構築

1 億 406 万円 (総務費)
マイナンバーカードを活用したデジタル市役所窓口の基盤となるシステムを整備



市道の修繕・整備

4 億 692 万円 (土木費)
幹線市道の舗装修繕や、市民からの要望箇所の修繕・整備を集中的に実施



校内フリースクールの設置

1,170 万円 (教育費)
市内 2 中学校に専属の支援員がいる校内フリースクールを設置